

## 「産婦人科の進歩」71巻2号 お詫びと訂正

- p178およびp180 ランチョンセミナー①の共催企業様に「MSD(株)」が入ります。
- p185 第3会場 孔雀 婦人科症例① に追加演題「96」がございます。
- p189 演題60のタイトルに誤りがございました。  
(誤) 集学的治療により救命し得た心肺虚脱型羊水塞栓症の1例  
(正) 帝王切開術後感染により子宮筋層創部完全離開を来した1例
- p236 一般演題抄録に追加抄録「96」がございます。

96

### Adenoid Basal Carcinoma の2例

大阪医科大学附属病院

飯藤宰士 古形祐平 宮本瞬輔 寺田信一 藤原聡枝 田中良道 田中智人 大道正英

【緒言】 Adenoid Basal Carcinoma(以下 ABC)は子宮頸部悪性腫瘍の1%未満と稀な疾患である。今回子宮頸部円錐切除後に診断に至ったABCの2例を経験した。【症例】症例1; 72歳、3妊2産。子宮頸部細胞診でSCC、頸管内キュレットでCIN1~2であったため診断的円錐切除術を施行した。病理組織診断でABC with CIN2であったため、腹腔鏡下準広汎子宮全摘+両側付属器摘出術を追加した。摘出標本ではCIN2のみで、術後再発なく経過している。症例2; 78歳、4妊3産。不正性器出血を主訴に受診され、子宮頸部細胞診でSCC、子宮頸部組織診ではCISであった。骨盤MRIで明らかな腫瘍性病変を認めず、診断的円錐切除術を施行した。病理組織診断でABC with CIN3の診断であったため、腹腔鏡下準広汎子宮全摘+両側付属器摘出術を追加した。摘出標本ではCIN3のみで術後再発なく経過している。【結語】子宮頸部円錐切除術により診断に至ったABCの2症例を文献報告とともに考察する。

演者ならびに会員の皆様、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

第140回近畿産科婦人科学会学術集会 主催校・関西医科大学  
『産婦人科の進歩』編集室